

## 序論

本誌で特集を組んでいただいた「セーフティプロモーションスクール」という名称は、わが国の学校安全に関わる研究領域でもいまだ十分な市民権を得ているとは言いがたい用語です。しかしながら今回、会員の皆様に現在の日本で取り組まれている「セーフティプロモーションスクール」の活動をご紹介する機会を得ることができて大変光栄に思っております。

「セーフティプロモーションスクール」とは、本誌の拙稿「セーフティプロモーションスクールの理念と認証制度」で紹介しているように、スウェーデン王国のカロリンスカ研究所に設置されていたWHO Collaboration Centre on Community Safety Promotion (WHO-CCCSP) が推進していたInternational Safe School (ISS) の考え方や英国UNICEFが推進しているChild Friendly School (CFS) の考え方などを参考に、平成24年5月に閣議決定されたわが国の教育振興基本計画に示された「自助・共助・公助」の理念と、わが国独自の学校安全の考え方や「チーム学校」における「共感と協働」の視点を基盤として、包括的な学校安全の推進を支援することを目的として構築された新たな認証制度の名称です。平成26年10月11日に、その活動のための組織（日本セーフティプロモーションスクール協議会）と制度を、筆者が所属する大阪教育大学内に立ち上げ、平成28年度からは文部科学省の「学校健康教育の推進」事業の一部として位置づけられ、現在、日本各地の学校への普及・啓発が始まっているところです。

本誌では、わが国で最初に「セーフティプロモーションスクール」として認証され、セーフティプロモーションスクールの活動を先導的に展開していただいている大阪教育大学附属池田小学校、大阪教育大学附属池田中学校並びに東京都台東区立金竜小学校におけるセーフティプロモーションスクールの活動についてご報告いただいております。

大阪教育大学附属池田小学校では、平成13年6月8日の事件の反省と教訓を基に、事件の風化と再発の防止を誓い、日々、学校における安全教育と安全管理の実践に

取り組まれています。本誌では、その実践の積み重ねの一部をご報告いただいております。また大阪教育大学附属池田中学校では、附属池田小学校事件が発生した池田キャンパスにある中学校としての使命を基に、中学生という発達段階から考えた子どもの実態や、自然災害や社会的犯罪など、時代や社会からの中学生に対する要請に配慮した主体的な安全教育と安全管理の実践についてご報告いただいております。最後に台東区立金竜小学校は、日本有数の観光名所である浅草寺に近く、学区域には昔ながらの住宅街や住居と商店が一体化した商業地域があり、また近年は校区内に高層マンションが建設されるなど、学区域人口が増加しているという特徴を持つ公立小学校です。このような公立小学校としての特徴を活かして、学校を中心に児童・保護者と地域・関係諸機関が連携して実践している安全教育や安全管理の取り組みについてご報告いただいております。

わが国におけるセーフティプロモーションスクールの活動は徐々に充実され、今回報告いただいた3校以外に、京都市立養得小学校がセーフティプロモーションスクールに認証されています。また認証を目指して、日本国内では宮城県、岐阜県、大阪府そして高知県の幼稚園・小学校・中学校、計8校で認証のための活動が開始されています。また日本各地の教育委員会からの問い合わせも増えている状況です。本学会員の皆様には、今回ご紹介した3校におけるセーフティプロモーションスクールの活動における工夫と実践の成果を共有していただき、「共感と協働」の視点から、「チーム学校」の一員としてわが国の学校における一層の安全推進にご理解とご支援を賜りたいと願っております。

最後となりましたが、わが国におけるセーフティプロモーションの新たな取り組み事例として、「セーフティプロモーションスクール」の活動を紹介する機会をいただいた本誌編集委員会のご高配に深謝申し上げます。

大阪教育大学  
藤田大輔